

ときわびとに寄せて

北海道支部前支部長（札幌） 竹内道雄

先ずは近況について

私は平成十年頃より糖尿病を発症し、平成十四年四月頃より腎臓の不調を感じ、平成十七年4月には腎臓不全となり、以来平成十九年十一月まで二年六ヶ月透析を致しました。平成十九年十一月に妻より生体腎移植を受け、現在は以前の様に通常の生活をしているところです（とても元気に過ごしております）。

昭和四十四年第一回卒業生として出身地北海道に就職し以来四十三年余り、東日本支部（愛知県以北）、北海道支部長と勤めさせて頂きました。

この間に同窓会総会、同期会の集い等で六回程訪問致しましたが行度毎に学校は大きくなっており感激しているところです。

私は昨年十二月に四十三年余りやって支部長を卒業する事が出来ました。

新支部長は六期生の宮田修君です（旭川市）。きっと新風を送ってくれる事に期待しているところです。よろしくお願い致します。

結びについて

神戸常盤大学同窓会の今後の益々発展をご祈念申し上げます。

さて、此度同窓会だよりに投稿の依頼があり「題」は雪まつりとの事で私は第六十三回札幌雪まつりについて投稿致します。

北海道各地で冬まつり行われていますが中でも札幌雪まつりが北海道では最大です。

二月六日から十二日までの一週間、大通公園を中心に大雪像五基（自衛隊の協力による）今年のメイン像は東日本震災にちなみ復興を願い福島県の会津若松市の「会津鶴ヶ城」でした（高さ十五メートル）。

他に市民の手作りの中・小の像が百九十六基の二百二十一基でした。さらに国際コンクールも行われ十六の国と地域よりの参加もありました。

来場者は二百五万人余り（インフルエンザの流行もあり前年より三十万人程少なかったが天候に恵まれ盛会裡に終了した）。

平成二十四年二月十五日 竹内 記





